

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

今年に入り早いもので2ヶ月が過ぎ去ろうとしています。愛知県議会は来年度予算案等を審議する2月定例会が今月20日より始まります。

日本経済は緩やかな回復基調を維持していると言われていたものの、イギリスのEU離脱やアメリカの新大統領就任による政策転換、更には中国経済の減速などにより、先行きは非常に不透明な状況にあり、来年度の県税収入は、本県企業の業績予想などを踏まえると、法人二税の大幅減が見込まれ、県税全体としては今年度から800億円近くの減収となり、これに過誤納還付金や還付加算金の増を合わせると、合計で一千億円近い減収となると見込まれています。

一方、歳出面においては、高齢化に伴う医療・介護等の扶助費が年々増加しており、予算編成段階では前年度を上回る多額の収支不足が見込まれておりましたが、今年度と来年度の2ヶ年に渡る財源調整と県債等のフル活用によって、何とか収支不足は解消される事となりました。

各県が人口減少に苦しむ中、幸いにして愛知県は人口増加を続ける数少ない県の一つであります。約一年半前に策定された「愛知県人口ビジョン」によれば、愛知県も2020年をピークに、ついに人口減少へと突入し、何も策を講じなければ、2060年には今よりも150万人少ない約600万人になってしまうと予想されております。

従って、2027年に開業が予定されているリニア中央新幹線の効果を最大限に活用出来る街づくり、産業立県愛知の更なる発展に向けた産業振興策の充実、そして、人口減少に歯止めを掛ける為の諸施策の実施など、様々な課題に対する施策が確実に予算案に盛り込まれているかを、議会審議を通じてしっかりとチェックし、提言活動に繋げてまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 